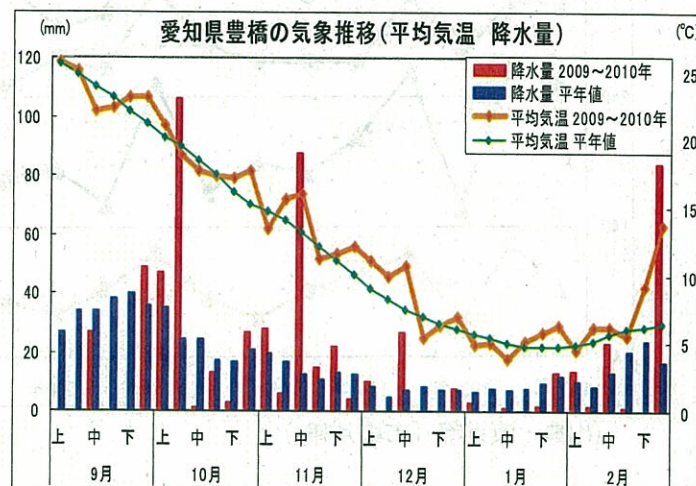
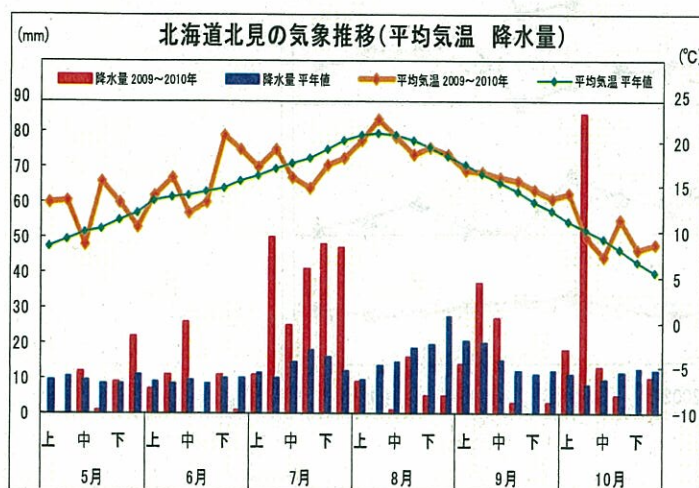


野菜の卸売情勢と産地動向について

1. 最近の野菜の卸売市場情勢（入荷量・価格）

（1）気象推移

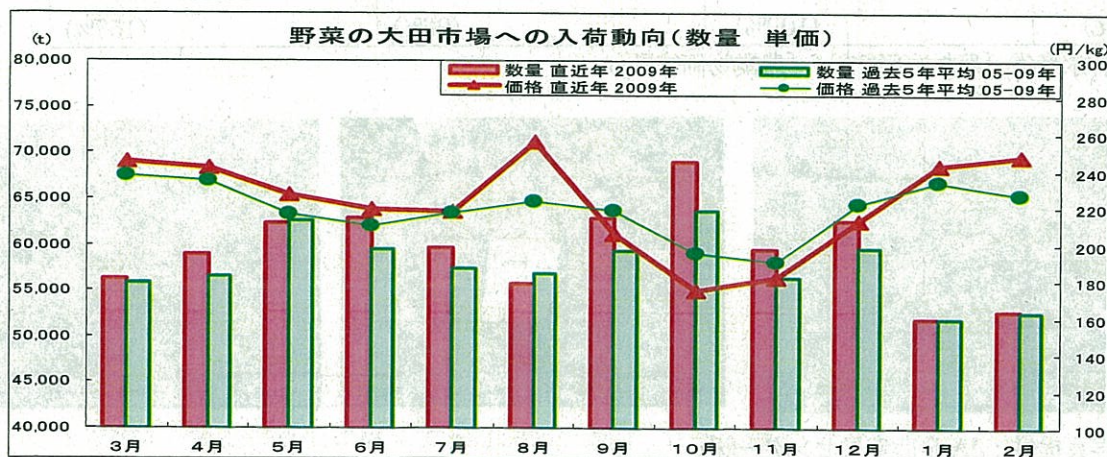
- たまねぎの主産地の北海道北見は7月は極端に平年を上回る降雨と、極端な低温となった。
- キャベツの主産地である豊橋は10月上旬に台風18号で降雨・風による被害をうけた。
本年は年明け前後に低温となったが、2月下旬は平年を大きく上回る気温と降雨となった。



（出典：農畜産業振興機構「ベジ探」）

（2）野菜全体の卸売情勢

- 夏以降、価格はめまぐるしく変化し、高騰や低落をくりかえした。
- 8月は天候不順の影響で入荷が少なく高値となったが、9月から12月は天候に恵まれ入荷が多く、価格が低迷した。
- 1,2月の価格は年始前後の冷え込みによる生育遅れがあり、平年をやや上回って推移している。



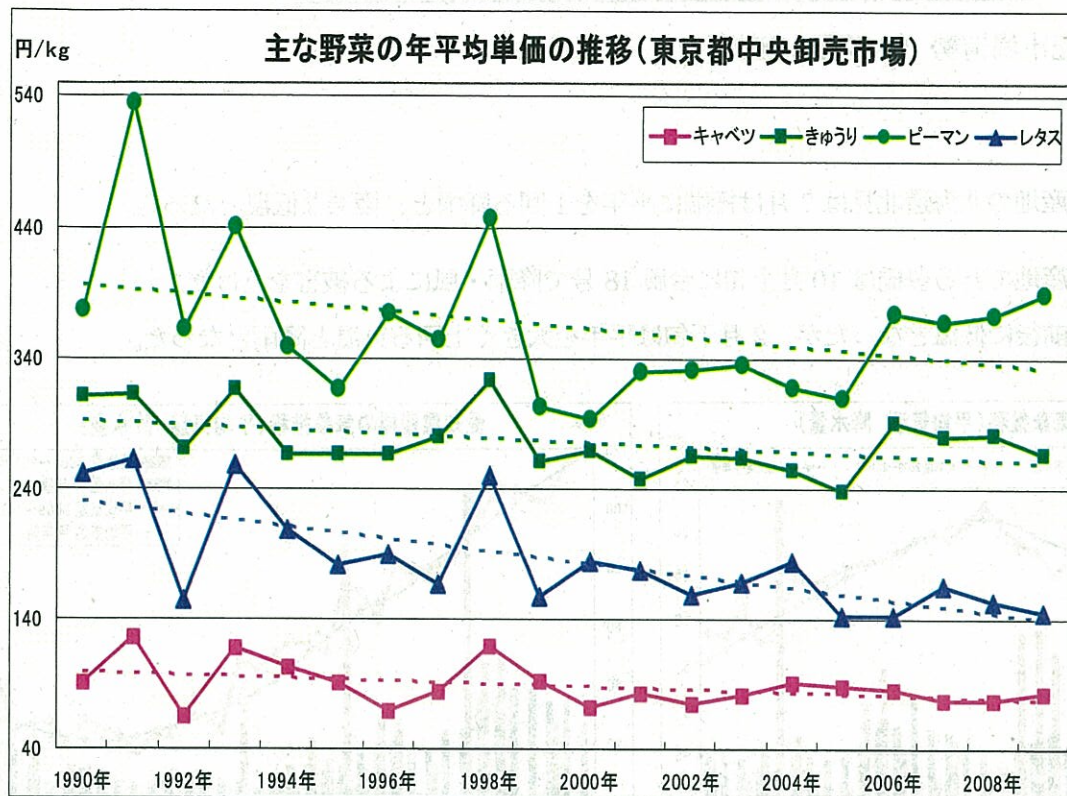
（出典：農畜産業振興機構「ベジ探」）

2. 野菜産地をめぐる長期的な動向

(1) 長期的な価格推移

○年ごとに変動はあるが、価格は横ばいから低落傾向にある。

但し、直近 10 年間を見ると価格は大きく動いていない。



(出典：東京都「市場月報」)

(2) 生産コスト(資材費)の上昇

長期的に見ると、生産コストは上昇している。

○ ビニル、段ボール、重油の10年前との価格比較

(円)	農業用ビニル (100m あたり)	野菜用段ボール (10kg 箱 1 箱)	A 重油 (200 l あたり)
1997 年	11,780	103	9,675
2007 年 (’97 年比)	12,870 (109%)	99 (96%)	15,200 (157%)

(出典：農林水産省「農村物価統計」「農業物価統計」)



(イメージ写真提供：JA 全農青果センター(株))

(3) 全国の作付けの変化

野菜全体の作付面積 2007 年は、44 万ヘクタールで 10 年前との比較では 15%減少している。

特に、作付面積の減少は、生産コストのかかる施設野菜の方が顕著となっている。

面積 (ha)	(露地野菜中心)		(施設野菜中心)	
	キャベツ	レタス	きゅうり	ピーマン
1999 年	37,400	21,700	15,600	4,170
2004 年 (’99 年比)	33,300 (89%)	21,800 (100%)	13,700 (87%)	3,680 (88%)
2008 年 (’99 年比)	33,100 (88%)	20,800 (95%)	13,100 (83%)	3,430 (82%)

(出典：農林水産省「野菜生産出荷統計」)

- 近年の気象推移はいわゆる「温暖化」にとどまらず、平年と大きく異なることが多く、野菜生産にも多大な影響をあたえ、卸売市場価格の変動にも影響を及ぼしている。
- また、最近の野菜価格は、消費動向、経済環境の影響も大きく受けている。
- 販売価格が不安定なうえ、生産資材コストは近年上昇傾向にあり、農家経営は圧迫されている。
- 産地サイドとしては、生産基盤を維持し、引き続き安定供給の役割を果たすため、気象変動の影響を受けにくい生産（品種の選定、組み合わせ等）や、生産コストの削減（出荷容器の簡素化、ハウスの加温効率の向上等）のほか、需要拡大にむけた消費拡大に取り組んでいる。

